

医療法人社団友愛会 岩砂病院・岩砂マタニティ

災害時の業務継続について訓練を重ね職員理解と意識が高まった。日常業務の改善につながるともに、停電時等非常時にも役立っている。

●長良川、鳥羽川の浸水想定区域に位置する内科、産科を中心とした地域医療を担う小規模病院。災害時には患者及び職員の安全を確保しながら事業継続を図る。予警報等に基づき事前の外来診療の休診、災害時の職員の確保等を判断、患者及び職員を避難する計画としている。被害状況に応じて被災者に医療を提供し、地域の復旧に貢献する。また、継続的な医療提供のため、建物・設備の浸水対策を検討。



- 立地
 - ・岐阜県岐阜市
- 業種・規模・創業
 - ・病院（内科、産科）
 - ・病床数132床
 - ・職員数約250名（法人全体約550名）
 - ・明治29年創業



No.1 水害対応版BCP策定の目的

洪水等の風水害により、当院及びその関係機関、周辺地域が被災した場合を想定し、職員及び患者の安全を確保しながら事業を継続、または、早期復旧することを目的とする。このBCPを「水害対応版BCP」と称する。「水害対応版BCP」は既存「事業継続計画」に追加するものとする。

No.2 水害対応版BCPの基本方針

岩砂病院・岩砂マタニティは、「人命を守ること」を最大の使命としたうえで、以下の3点を基本方針とします。

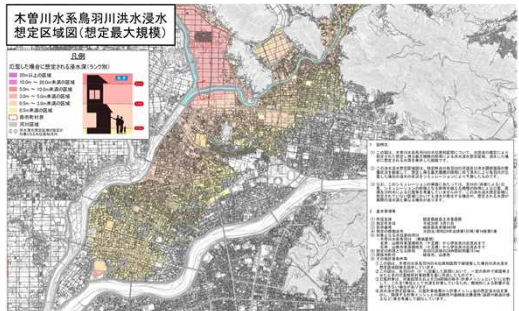
- 職員および家族の安全確保と人員の確保
- 継続的な医療提供
- 地域への貢献

No.4 水害時の想定（洪水の浸水範囲・浸水深）、避難所、避難ルート

■浸水深0.5-3m 長良川（想定最大規模）



■浸水深0.5-3m 鳥羽川（想定最大規模）



No.3 重要業務（事業）

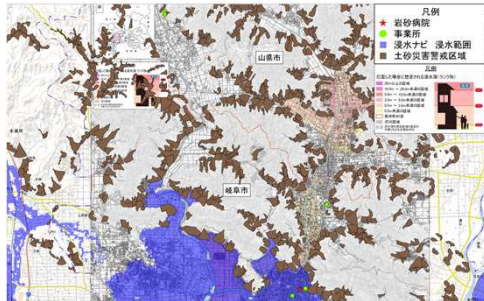
- IV 非常時における優先業務の選定
1. 前提

当院は、内科と産科を中心とした132床の小規模の病院です。内科病棟・回復期病棟は常に90%の稼働を保っており、分娩年間900件にのぼっています。
 2. 優先業務
 - 1) 入院・分娩業務 = 維持継続が必要な通常業務

1.からも、当院にすでに入院している患者や、妊産婦に対する通常業務の継続は何においても継続すべき事業であるといえます。
 - 2) 内科外来業務 = 災害時応急対策業務

一方、災害時には多くの負傷者が発生することが予測され、医療施設としては外来機能の速やかな復旧が求められます。当院には外科はありませんが、さまざまな病態の被災者にも対応せざるを得ない内科外来は、1)の継続を脅かすボトルネックとなります。そのため、災害応急対策業務についても重要業務とします。

■車両等の移動候補地



（想定される被害）

- ・浸水による建物・設備の被害。浸水深0.5-3m（長良川）で1階に被害が及ぶ。
- ・道路、電力等の破壊。長期的寸断。
- ・事業の長期的停止

（そのため）

- ・人命被害回避のため早期帰宅（及び緊急避難）を検討する。
- ・重要資機材の移動を検討する。
- ・事業継続を検討する。

No.5 初動対応開始のタイミング

